

名古屋芸術大学グループ 7月通信

07
June
2008

News/topics

ニュース&トピックス

音楽学部

- 第35回卒業演奏会開催
- 大学院音楽研究科 第10回修了演奏会
- 音楽学会・音楽教育学会合同例会において 本学4年生川内さんが論文発表
- 第30回目の学生オペラ公演 「ジャンニ スキッキ」

デザイン学部

- デザイン学部レビュー選抜展とその授賞式が行われました
- 「Global Challenge for Sustainable Design」 ヘルムート・ランガー特別講演会 元COBRADAイコグラファー、ケルン エコサイン・アカデミー教授

美術学部/デザイン学部

- 2008年度前期 交換留学生のウェルカムパーティーが開催されました
- 第35回卒業制作展・記念講演会 第12回大学院修了制作展

美術学部

- 斎の吟遊詩人 佐藤園夫 名古屋芸術大学収蔵作品展が開催されました

人間発達学部

- “ほくのわたしのすきなポップ” すしプレート～おひな様企画～
- 「人間発達研究所」が設立されました
- 基礎学力フォローアップ講座スタート!

名古屋保育・福祉専門学校

- 2008年度入学式

幼稚園

- 滝子幼稚園入園式

大学/大学院/短期大学部

- 短大部四十五年の歴史に幕閉校式で校旗を返還し収納
- 東キャンパスに短大部閉校記念碑を設置
- 2008年度名古屋芸術大学入学式
- 新入生歓迎会 一期一会/ U-TORI

コラムNUA

発達・生成・芸術からなるポロメオの結び目
— ニーチェの生涯によせて —
人間発達学部教養部会准教授 森田裕之

Master Artist

マスターアーティスト
「古希の少年」
立体造形コース 教授 庄司達

Information

インフォメーション

- 2008年6月～12月までの主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記

Feature

ジャンルを超えた 新しいクリエイターを育てる 〈特集〉美術学科アートクリエイターコース



Entexit

エンタジット

- 2009年度入試日程
- 2008年度 オープンキャンパス日程
- アート&デザインセンター 2008/2009 展覧会スケジュール

Close up! NUA-ism

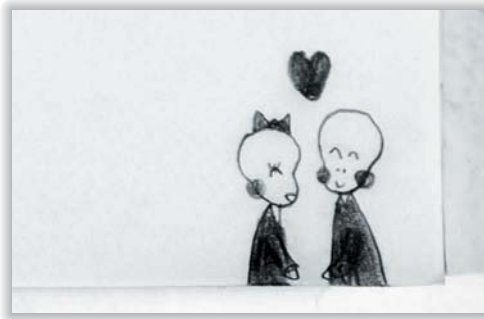
～進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OB
「理屈抜きで“感じるもの”だと思っんです”
テノール歌手 笛田博昭
NUA-STUDENT
「ナニクソ」
大学院デザイン研究科
3Dデザイン研究2年 河村健太



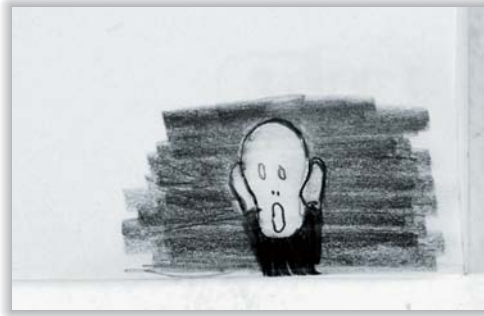
名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

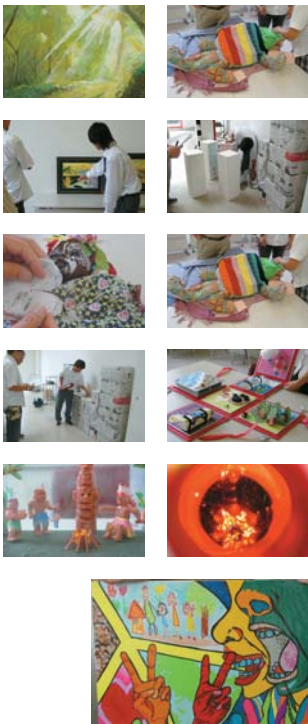
- 名古屋芸術大学/大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科
- 学部：音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部
- 名古屋保育・福祉専門学校/保育科 介護福祉科
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
- 滝子幼稚園



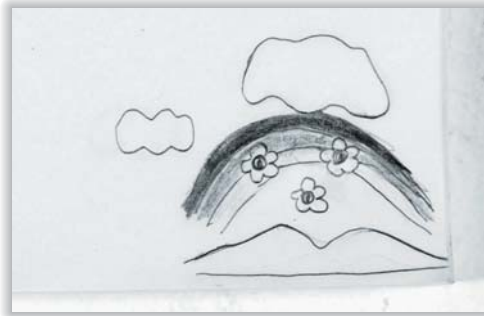
A日程入試
「バラバラ漫画制作」



AO入試
「〇〇にプレゼントする作品」

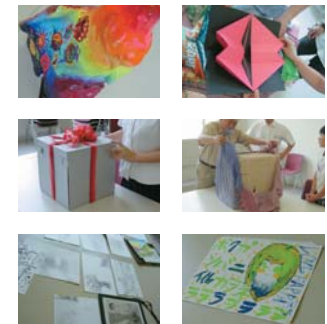


ジャンルを超えた新しいクリエイターを育てる



美術学科 アート クリエイター コース

Creative Arts Practice



本年4月からスタートした美術学部の学科再編に伴い、これまでのジャンルを超えた新しいクリエイターを育てるための「アートクリエイターコース」が開設されました。既存の美術やデザイン、工芸などと、その他の様々な分野との横断や交流を通じて、新しい発想や技術を身につけたクリエイターを養成することを目的としています。このため「ユニークな想像(発想)力・理解力を測る試験」を実施、まったく新しい入試方法で選抜された学生たちが入学してきました。現在、新カリキュラムに沿った前期の授業が始まっています。今回は、この美術学科アートクリエイターコースを紹介します。





■ 学生の発想力、創造性を重視

ジャンルを超えた新しいアーティスト、クリエイターを育成するためのコースです。実際に作品が、どういうコンセプトで、どのようにして作られていくかを、平面表現、写真・映像表現、フィギュア、オブジェなどの制作を通じて学びます。幅広いクリエイターを育成するため独自に開講する科目のほか、他のコースで開講されている科目も受講することができる多様で魅力的なカリキュラムを用意しています。

入試についても、既存の枠組みを根本的なところから見直し、まず長年多くの実技系美術大学でも行なわれて来た技術力(デッサン)だけによる入試判定を止め、想像(発想)力や創造性を見いだせる課題制作「〇〇にプレゼントする作品」(AO入試)、持参作品(推薦・地域入試)、発想力テスト「パラパラ漫画制作」(A日程入試)を行いました。その結果、従来なら美術・デザイン系大学には進学することはなかったクリエイティブ志向の学生が受験し、合格しています。

発想力・創造性が重視されますが、もちろん技術力も必要なので、AO入試合格者から順次10月から3月まで毎月第4土曜日に、合格者入学前スクーリングを開催し、不足しているかもしれないスキル(デッサン力など)を補えるようにしました。その結果、受験のためのデッサンを経験していない多くの合格

者が、結構な腕前のクロッキーやデッサンが描けるようになり、本人も大学側も不安なく入学、スタートが切れるようになりました。

■ 目的に応じたスキルが身に付けられる

1年次は「デッサン」「絵画」「彫刻」「版画」「写真」など基本的な実技を身につける科目のほか、「アイデアとエスキース」「ドローイング」「マーケット」など想像力、創造性、才能、可能性を引き出すための科目を開講します。2年次以降も、絵画、彫刻、工芸、映像、デザインなど幅広い科目を開講し、やはり他コースで開講されている実技科目も受講できます。例えば、従来なら絵画科の学生は色彩構成などの授業はないし、デザイン科の学生は絵画などの授業はありませんが、アートクリエイターコースは、積極的に色彩構成も絵画も経験するのが特徴といえます。

1、2年次を基礎、3、4年次を専門という従来の区別を基本的には止め、1年次からクリエイターとしての自覚を持ち、自分の目指す方向を、幅広い領域の中から早い内に自ら選び取り、その目的に必要なので必然的に意識を持ってスキルを身につけて行く、と言うプロセスが踏めるように導いて行きます。学生によっては、2、3年次から他のコースを専攻する方が相応しくなるケースもあり得るので、できるだけスムーズに移動が可能ないように開講科目が設定されています。

入学前スクーリング
「練り消しフィギュア」制作



准教授
西村正幸
「クリエイター研究」(前期)
「ドローイング」(後期)
「版画基礎実技」(前・後期)



准教授
岩井義尚
「彫刻」(前期)
「マーケット」(後期)
「木彫技法」(後期)



非常勤講師

片山 浩	版画基礎実技	吉岡 弘昭	版画基礎実技
近藤 千鶴	版画基礎実技	山口 幸一	写真演習
設楽 知昭	デッサン/絵画	中田 由絵	版画基礎実技
豊富 春菜	版画基礎実技	川田 英二	版画基礎実技
長谷川直美	版画基礎実技		
松岡 徹	CAP基礎実技/版画基礎実技		



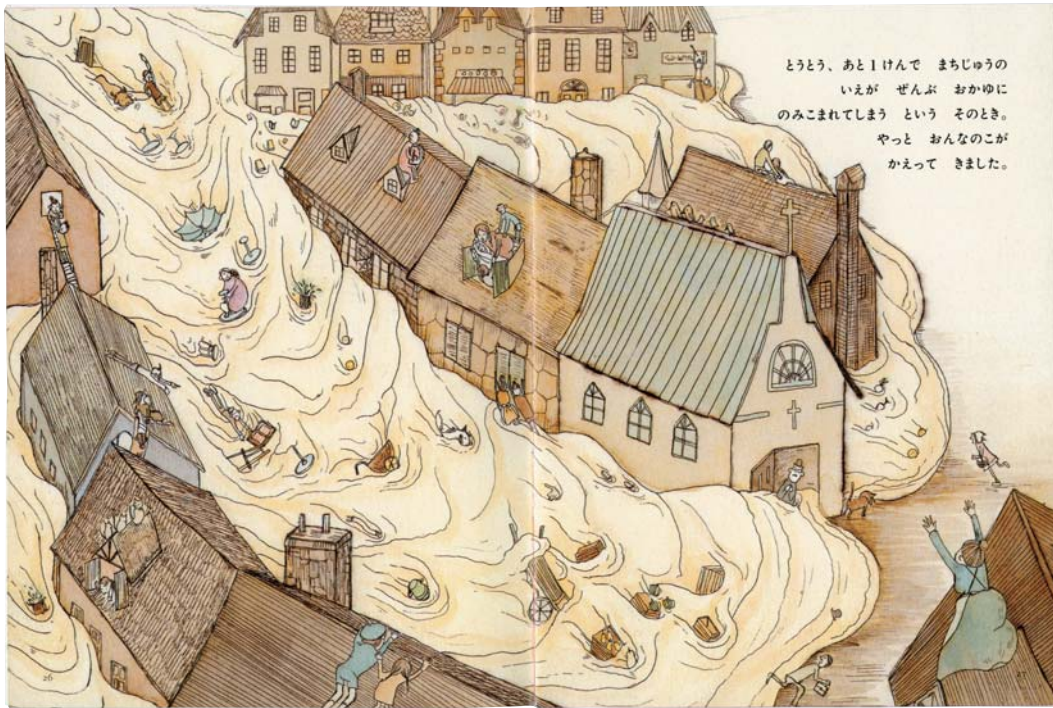
a



b



g



c



h



i



d



e



f



j

■ 方向性を明確にするチューター制度

担当専任教員がほぼ毎日順次学生の個別のチュートリアルを行い、その都度必要な方向性や問題点を見いだせるようにしています。同時に、大学院同時代表現研究2年生4名が、火曜日から金曜日の5限目に、2名ずつローテーションでチューターとして入り、教員では距離があつて踏み込めない学生生活や専門実技などの相談にのったりアドバイスをし、新生たちの不安を解消する役割を担っています。完成年度には、アートクリエイターコースの上級生が下級生のチューターを担当するようなシステムに移行する予定です。

■ 自分が101人目のクリエイター

アートクリエイターコースの最も大きな特徴が「OHOC（オーホック）」です。学生たちがクリエイターとなるためのモチベーションを高めるため、4年間で100人の様々なクリエイターに出会ってレポートをまとめ、卒業時に自分が101人目のクリエイターとして世に出て行くというコンセプトの「One Hundred and One Creators<101人のクリエイター>」が、アートクリエイターコースの軸となるプロジェクトです。前期には、すでに画家、彫刻家、絵本作家、職人など十数名の国内外のクリエイターを招いたり出かけて行く予定が組まれています。

■ 多岐にわたるクリエイターを輩出

本人の要望に応じて、学内外を問わず、可能な限り学びたいクリエイターとの接点を設け、必要な能力が身につけられるようにします。他コース同様、教職員免許と学芸員免許を取得することも可能です。

卒業後、職人、画家、彫刻家、デザイナー、イラストレーター、カメラマン、メディアアーティストなど、多岐のジャンルにわたるクリエイターを輩出することが目標です。従来からの芸術家を育てる、ということだけでなく、4年間で身につけた専門技能や発想力をもって、様々なクリエイターが生まれることを積極的にバックアップします。

■ a: [untitled] 奥野規 (カメラマン/1999年デザイン科版画選択コース卒業) ■ b: [雑誌のための写真] 尾野訓大 (カメラマン/2007年大学院同時代表現研究修了) ■ c: 絵本『おいしいおかゆ』(フェリシモ出版) 尾崎幸 (絵本作家/2004年大学院同時代表現研究修了) ■ d: 『鳥からのプレゼント』(部分) 平田あすか (アーティスト/2005年大学院同時代表現研究修了) ■ e: 『吾茲哉』 塩津文洋/益我職人 (2007年デザイン学部卒) ■ f: 『白飯喰らうフォルトウーナ』 飯部泰奈 (アーティスト/2003年大学院同時代表現研究修了) ■ g: 『笑門来福』 近藤平輔/アーティスト (2000年版画コース研究生修了本学版画コース非常勤講師) ■ h: 『God created great+small』 中田由紀/アーティスト (本学版画コース非常勤講師 1999年版画コース卒業) ■ i: 『子ども向け英語テキストのカード』 石倉悦加/イラストレーター (1997年版画コース研究生修了) ■ j: 『紙で作った照明 (100個)』 松岡徹 (造形作家、本学アートクリエイターコース非常勤講師、1992年版画コース研究生修了)

2009年度入試日程

2008年度 オープンキャンパス

■ 音楽学部

6月14日(土) 10:00~
9月27日(土) 10:00~

■ 美術学部・デザイン学部

6月15日(日) 入門編 10:00~
7月20日(日) 体験編 10:00~
9月14日(日) 進学編 10:00~

■ 人間発達学部

7月20日(日) 10:00~
8月23日(土) 10:00~
9月21日(日) 10:00~



学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	AO入試	9月22日~ 9月29日	10月 5日	10月 9日	
	推薦入試	10月17日~10月31日	11月 8日	11月14日	
	A日程入試	1月 5日~ 1月26日	2月 5日・6日	2月10日	
	3年編入試	1月 5日~ 1月26日	2月 6日	2月10日	
	特待生入試	1月 5日~ 1月26日	2月 6日	2月10日	
	B日程入試	2月25日~ 3月19日	3月25日	3月26日	
	B日程入試	2月25日~ 3月19日	3月25日	3月26日	
■ 大学院音楽 研究科	A日程入試	11月 4日~11月21日	12月 6日	12月11日	
	B日程入試	2月25日~ 3月19日	3月25日	3月26日	
	■ 美術	AO入試	8月11日~ 8月26日	9月 6日	9月 9日
		推薦入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日
		社会人入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日
		社会人シニア入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日
		3年編入試・転科・転コース	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日
		地域入試(浜松)	11月20日~12月 4日	12月13日	12月19日
		A日程第一方式(セ併用)	1月 8日~ 1月26日	2月 6日	2月12日
		A日程第二方式(一般)	1月 8日~ 1月26日	2月 6日	2月12日
センター利用入試(前期)		1月26日~ 2月 9日	センター試験のみ	2月20日	
B日程第一方式(セ併用)		2月19日~ 3月 6日	3月17日	3月19日	
B日程第二方式(一般)	2月19日~ 3月 6日	3月17日	3月19日		
センター利用入試(後期)	2月19日~ 3月 6日	センター試験のみ	3月19日		
■ 大学院美術 研究科	I期入試	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日	
	II期入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日	
■ 研究生/研修生	研究生入試・研修生入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日	
■ デザイン	AO入試	8月11日~ 8月26日	9月 6日	9月 9日	
	AO 3年編入試	8月11日~ 8月26日	9月 6日	9月 9日	
	推薦入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	社会人入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	3年編入試・転科・転コース	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日	
	地域入試(浜松)	11月20日~12月 4日	12月13日	12月19日	
	A日程入試	1月 8日~ 1月26日	2月 5日・6日	2月12日	
	B日程入試	2月19日~ 3月 6日	3月17日	3月19日	
	■ 大学院デザイン 研究科	I期入試	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日
		II期入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日
■ 研究生/研修生	研究生入試・研修生入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日	
■ 人間発達学部	3年編入試	10月 6日~10月24日	11月 1日	11月 7日	
	推薦A入試	10月 6日~10月24日	11月 2日	11月 7日	
	推薦B入試	11月11日~12月 1日	12月 7日	12月12日	
	社会人入試	11月11日~12月 1日	12月 7日	12月12日	
	一般A日程入試	1月 7日~ 1月26日	1月31日・2月1日	2月 6日	
	センター前期入試	1月 7日~ 1月30日	センター試験のみ	2月13日	
	センター後期入試	2月20日~ 3月 9日	センター試験のみ	3月18日	
	一般B日程入試	2月20日~ 3月 9日	3月14日	3月18日	

※実施する学科(専攻コース)の詳細及びその他の入試については学部の広報入試課にお問合せください。

アート&デザインセンター 2008/2009 展覧会スケジュール



Open/12:00~18:00(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日休館
[入場無料]どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先/(0568)24-0325(代)

会 期	展覧会名
5月30日(金)~ 6月11日(水)	FROM REMISEN #10 Sigrun Gunnarsdottir+Ulnike Donie
6月13日(金)~ 6月18日(水)	others vol.2
6月13日(金)~ 6月18日(水)	書道演習作品展
6月20日(金)~ 6月25日(水)	大学院美術研究科同時代表現研究一年生作品展
6月27日(金)~ 7月 2日(水)	へその緒地帯
6月27日(金)~ 7月 2日(水)	名芸映像研究部
7月 4日(金)~ 7月 9日(水)	前期交換留学生展
7月11日(金)~ 7月16日(水)	洋画コース3年選抜展
7月18日(金)~ 7月23日(水)	素材展(メタル・テキスタイル)
7月24日(木)~ 9月10日(水)	夏期休館
9月11日(木)~ 9月17日(水)	ソフトスカルプチャー
9月19日(金)~10月 1日(水)	企画展 会田 誠 展(仮称)
10月 3日(金)~10月15日(水)	大学院洋画制作展 '08
10月17日(金)~10月20日(月)	AB展(彫塑)
10月23日(木)~10月29日(水)	セラチンシルバーセッション展
10月31日(金)~11月 5日(水)	境界から見えるモノ
11月 7日(金)~11月12日(水)	中国からの風
11月 5日(水)~11月19日(水)	Hannover&Nagoya作家滞在制作
11月14日(金)~11月19日(水)	幼稚園児たちのゲイジツ展
11月21日(金)~12月 3日(水)	企画展 Drawing Encounter : Hannover&Nagoya
12月12日(金)~12月17日(水)	工芸コース作品展
12月24日(日)~ 1月 4日(日)	冬期休館
1月 6日(火)~ 1月10日(土)	日本画3年作品展
1月14日(水)~ 1月21日(水)	「聖母の御眠り」模写展
1月27日(火)~ 2月 4日(水)	AFTER REMISEN#10 荻野佐和子+小澤輝彦子
2月24日(火)~ 3月 1日(日)	卒業展

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



マダムバタフライ世界コンクール受賞者コンサート



マダムバタフライ世界コンクール2次予選



ウィーン国立歌劇場にて

理屈抜きで“感じるもの” だと思っんです

オペラは、肉声で行われる。ひとりの人間から発せられる、マイクを通さない声だけでホールを満たし、観客を魅了する。肉声そのものに宿る迫力と美しさ。そこには、人間の心の奥底にある根源的な何かを揺さぶるような、新鮮な驚きと感動がある。そして、オペラの出演者もまた、その魅力に取り憑かれた者なのである。

「高校2年生のときですね。音楽の授業で、3大テノールの映像を見ました。その3大テノールを見たときに、『こいつら半端じゃないな』っていうか(笑)。アマチュアバンドのボーカルだった高校生は、ルチアーノ・パバロッティが歌う映像に衝撃を受けた。肉声の迫力と魅力を誰よりも敏感に感じ取ったのだろう。「それを見て、すごいと。これこそ本物だ、と思って。で、真似してみました。できませんよ、もちろん(笑)」。それまでも歌うことが好きで、声を褒められることもよくあったという。しかし、本格的に音楽を学びたいと思っていたわけではなかった。ただし、何かは始まっていた。「僕は、この人たちのファンになるっていうよりは、自分もああなりたかって。自分もあんな声が出したいって単純に思ってた。まだ、何も知りませんから。怖いも



<公演予定>

6月15日
半田市民管弦楽団 2008 ファミリーコンサート
～ラブストーリーはオペラから～
場所：半田市福祉文化会館
お問い合わせ：半田市民管弦楽団 事務局
TEL/0569-21-7105 FAX/0569-21-4454

7月21日
オペラの魅力 Vol.11
場所：しらかわホール
お問い合わせ：(株) OFFICEリラン
TEL/052-723-6220 FAX/052-737-7963



Vol.7 NUA-OB 笛田博昭

1978年（昭和53年）、新潟県生まれ。
2001年 音楽学部 声楽科卒業。
2003年 大学院 音楽研究科専攻修了。
2006年 第37回イタリア声楽コンcorso
イタリア大使杯受賞
2007年 第9回マダムバタフライ世界大会
第1位受賞

本学卒業後の2003年から数多くのオペラに出演。圧倒的な声量とその存在感で、多くのオペラファンを魅了。世界的な活躍が期待される新人テノール。

の知らずでね」。身長180cm、普段の話し言葉ですら艶やかな印象を与える声質。立ち振る舞いにも、どこか優雅さを感じられる。天賦の才に恵まれていることを誰しも感じるだろう。それも手伝ってか、高校3年になって受けた県のコンクールで最高位を受賞した。「これでいける。自分はこの道でいけるって思ったんです」。このときになって初めて音楽の道へ進む決意をしたという。



大学では多くを学んだ。それまで専門的に音楽を学んでいたわけではなかった学生にとって、何もかもが学ぶことにつながった。そして、何よりも大きな出会いがあった。学生は、中島基晴教授に師事した。「もう神様のように思ってますよ。理屈じゃないんですよ、先生のおっしゃることって。理屈をこねてどうのこうのいうのじゃない。だから、それが本当にもう魅力。先生ご自身が声を出してください、それを素直にすごいなって思えます。芸術って絶対、理屈じゃないと思うんですよ。そういった部分、その感じる部分を伝えてもらえる」。もちろん、悩んだこともある。「テクニック的なこととか、やっぱり、頭打ちになるとか、いつまでやってもうまくいかないときと

か、やっぱり悩みました。でも、練習することで、いつの間にか乗り越えられましたね。知らないうちにできるようになってたりとか。まあ、なんかかなっていきまして、今のところは。まだまだ成長段階ですから」。心身ともにバランスを取り、自分を良い状態に保つことで、困難を乗り越えてこられたという。それでも一方では、誰より自分に厳しい面も持ち合わせる。「よかつたっていう思い出はないですね。満足したっていう舞台はひとつもありません」。



肉声で人を魅了するということ。それはシンプルでありながら深遠なテーマである。「なにも知識のない人が、クラシックの歌を聞いて感じるこつて絶対理屈じゃないと思うんですよ。その感じる部分を目指して、その向こうにあるもの、行き着く先を持っていないと駄目だと思うんです。理屈抜きで感動できる歌い手になるっていうのが、最終的な目標ですね。一声聞いただけで感じさせる歌い手。来年には、イタリアへ勉強に行きたいと思案していると話す。素直な人間性に、ポジティブな思考。大きな飛躍がすでに見て取れるようだ。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



“RICORDINO”
(小さな記憶の意)
と名付けられた、
デジカメデータの
共有、出力を行
う公共機器。

RICORDINO
～小さな記憶の分かち合い～
2007年卒業制作

モットーの「ナニクソ」。気が緩まないようにするため、自分への戒めの意味も含まれている。



「ナニクソ」

デザインという行為は、芸術的行為ではない。芸術行為が、作家の内面に作品の根源が求められるのに対し、デザインは社会の中にその根源が求められる。大学院デザイン研究科 3D デザイン研究 2年 河村健太さんは、ポートフォリオを手に、作品が成立するまでの過程を説明してくれる。



「人がものを使うときの作法をもとに、もののインターフェースとかを見つめなおすみたいなことやってます。例えば、テレビのリモコンのボタンが、本当はボタンを使うんじゃなくてもっと直感的なものであったほうがいいんじゃないかと…。ページをめくる所作をベースに考えられた電子手帳の提案で、10以上のプロセスモデルを手に、その思考の過程が明らかにされる。「これを作ろうと思ったきっかけが、電車の中での作法だったんです。こうなんか片手で本を読むみたいな。それをそのまま、もう少し便利な形に…。」当たり前に使っているものを、もう少し便利に見えるように見直すこと



Vol.8
NUA-STUDENT

河村健太

大学院デザイン研究科
3Dデザイン研究2年



だ。プロセスの説明は明確だ。「形や改良点のそれぞれに理由があって、ひとつひとつ納得がいかないと、自分でそうはできないんです」。



小学生の頃から絵が好きで、度々入選し表彰されることもあった。大学受験でも、「自分には絵がある」と思っていたという。しかし、入学したデザイン学部では、絵を学ぶというより商業的なビジュアルについて学ぶことになり、ならば、絵よりものを作る、プロダクト&スペースブロックを選んだ。

決して真面目な学生だったわけではないともいう。「3年の前期まで、バンドやってまして…、きっかけは和田義行先生でした」。夏休みの課題がモデル作りだった。「スチロール削って持っていたら、ポイツてやられたんです、『ダメ』って。それからです。かなり火が点きました」。ポートフォリオに綴られているモットー「ナニクソ」に一途な性格が垣間見える。

デザイナーという仕事は、「技術者とユーザーの間に入って優しく説明するみたいなものと、最近は思ってるんですよ」と軽妙に話す。自分のためよりは、人のための絵。それがデザインであるし、そ

れこそが自分の希望。そのための訓練を積んできたことが言葉の端々に現れる。「自分のやりたいだけでは、最低ですね。アーティストではないので、情報が集約されていって最終的な形になると思うんです。だから、自分らしさをだすとノイズになっちゃうんで」。ときとして、強い意志も現れる。



やりたいこと、自分の将来について言えば、照れながら「責任感のあることがやりたいです」と答えてくれた。「ものは何でもいいです。縛りのある中で、責任を持ったことをしたいです。将来は、いろんなことを経て、教育者になりたいです。名古屋を盛り上げたいって気持ちがあって。現場でガッツリ体験してから、学校で教えたいです」。大学院1年目は、がむしゃらに頑張った。2年目には、「自分を客観視し、考えを整理しながらナニクソって、思ってますね」。

目下、就職活動に専心しているとのこと。最初の話へ戻れば、デザインとアート、作品の根源は異なれど、作品そのものには区別はないと考える。優れた工業製品は、その生い立ち如何に係わらずアートの一部であるといえる。ナニクソが何処へたどり着くか、楽しみにしたい。

音楽学部

第35回卒業演奏会 開催

名古屋芸術大学音楽学部の第35回卒業演奏会が2月29日(金)、3月1日(土)の両日にわたり、名古屋市中区伏見の「しらかわホール」で開

催されました。初日は、各学科コースから選ばれた16名の学生が、2日目は、14名の合計30名の学生が、在学中の集大成としての演奏(独奏・



独唱)を披露しました。

晴れの舞台に立った学生たちの精一杯の演奏に、指導教員や友人など関係者から惜しめない拍手が

送られていました。出演者の熱い思いが伝わる素晴らしい演奏会でした。



音楽学部

大学院音楽研究科 第10回修了演奏会

名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第10回修了演奏会が3月4日・5日・6日の3日間にわたり、名古屋市中区伏見の「しらかわホール」で

行われました。この春大学院を修了する学生の内13名が、在学中の研究の成果を独奏や独唱という形で公の場に披露しました。

濱津清仁氏の指揮のもと、コレギウム・アカデミカ(名古屋芸術大学大学院の演奏研究グループで、大学院や学部にも所属する教員や卒業生を中心に組織されたオーケス

トラ)の演奏をバックに、「晴れの舞台」にふさわしい渾身の力を振り絞った独奏や独唱が行われ、心に響く演奏会となりました。



音楽学部

音楽学会・音楽教育学会合同例会において 本学4年生川内さんが論文発表

3月22日(土)、金城学院大学において音楽学会・音楽教育学会の合同例会が開催されました。毎年、年度末の例会では、東海地区の大学出身者の卒業論文および修士論文の紹介が行われます。

本学からは音楽教育コース4年

生の川内悠華さんが「民謡と学校教育」(卒業論文)について発表しました。内容は、民謡を中学校の音楽教育に導入するに際して、どのような方法が良いのかという試論を打ち立てたものでした。民謡の実演を交えながらの迫力ある発表

で会場は静まりかえりました。

発表後、さまざまな質問が寄せられましたが、最後に一言「あなたは立派な先生になられるでしょう」というフロアーからのコメントに、それまで緊張していた川内さんの表情がにこやかになりました。ちなみに彼女は佐賀県の教員採用試験に現役で合格し、4月からは中学校の教員として勤務の予定です。

今後の活躍に期待したいと思います。

音楽文化創造学科音楽教育コース
教授 金子敦子



音楽学部

第30回目の学生オペラ公演
「ジャンニ スキッキ」

「既に30回目」

30回目を迎えました本学の学生オペラ公演も、去る3月14日(金)、中京大学文化市民会館ブルニエホールにおいてプッチーニ作曲のオペラ「ジャンニ スキッキ」を上演し大好評を得る事ができました。今年はプッチーニ生誕150周年に当たり前半の1部ではプッチーニのミサ曲の中の「キリエ」と「クレド」の合唱演奏を入れて公演を行いました。

「大きな作品への取り組み」

これまでの作品には「椿姫」、「蝶々夫人」、「カルメン」、「ラ・ボエーム」、「トゥーランドット」などがあります。このような、学生には困難と思われる作品にも果敢に挑戦してきました。今や多くの卒業生がここでの体験を経てそれぞれの場所でオペラ活動に携わっています。

「増えたファン」

本学のオペラ公演はこの名古屋ではよく知られた公演になってきて、近年これを楽しみにしているファンが増えています。なぜなら本格的な舞台装置、衣装、またオー

ケストラで学生公演といえどもプロのオペラ公演と変わりありません。しかも料金は安く大学の公演だからこそ実現できることです。今回もほぼ満席に近い観客で学生の熱演に惜しめない拍手が送られていました。今後もますますバージョンアップを考えていきます。

「国際交流」

さて昨年の「カルメン」公演に引き続きまして国際交流という本学の大きな教育成策のもと海外の姉妹提携校イタリア、フェラーラ音楽院から学生を招き共演させました。これにはフェラーラ音楽院ジョージ・ファブリー学長も賛辞を寄せられ、プログラムのお祝いの挨拶にこの国際交流公演の意義について述べられていました。

「学生同士の友好」

今回参加してくれました学生は昨年も「カルメン」の中で闘牛士役を好演しましたバリトンのマルコ・ブッシン君です。彼は24歳で背は190センチもある長身です。英語が上手で学生たちとはイタリア語

と英語を混ぜながら話していました。約1ヶ月滞在し、本学の学生との会話を楽しみながら一生懸命に練習に励んでいました。

「原語上演への取り組み」

今年も原語による上演で、歌詞はイタリア語ですからイタリア人学生の歌う発音は、学生にとってはまさに生きた勉強でした。最近ではどこの大学も原語による上演が主流になってきているようでして、今迄原語上演は学生には酷ではな

いかという声もありましたがそれはもう杞憂でしかありません。学生たちは見事にこなして立派に歌い演じてくれました。

「世界に羽ばたく人材の育成を目指して」

今後もこの外国人学生との交流を通して、本学学部生の国際感覚の醸成と世界へ羽ばたく人材の育成に努めていきたいと考えています。

オペラ研究室担当教授
澤脇達晴



デザイン学部

デザイン学部レビュー選抜展と
その授賞式が行われました

4月18日(金)から23日(水)まで、西キャンパスのアート&デザインセンターで、「デザイン学部レビュー選抜展」が行われました。この展覧会は、去る1月に行われたデザイン学部恒例のレビュー展の作品群から、特にすぐれた作品を選抜して公開展示されたものです。優秀作品は、1年生は各クラスから2名、2・3年生はそれぞれの専攻コースから原則各1名が選抜されました。さらに、教養賞として各学年1名が選ばれ、延べ40名の作品が展示されて行われました。

優秀者への表彰式が4月22日(火)

授業終了後に同センター内で行われました。溝口学部長から受賞者に表彰状が手渡され、また、各コースの指導教員からは、学生たちのために工夫を凝らした記念品が贈られました。受賞者達のはにかみながらも満願の笑顔が印象的でした。

来学中のデザイン学部元客員教授ヘルムート・ランガー氏から作品への講評と挨拶も行われ、意義深い授賞式となりました。その後、教員と学生たちの懇親パーティーに移り、和気あいあいとしたなごやかな雰囲気の中で終了しました。



デザイン学部

「Global Challenge for Sustainable Design」 ヘルムート・ランガー特別講演会 元ICOGRADAイコグラダ会長・ケルン エコサイン・アカデミー教授

4月24日、ドイツおよびEU諸国を中心に長年活躍しているコミュニケーションデザイナーであり本学の元客員教授でもあるヘルムート・ランガー氏を迎え、西キャンパスB棟大講義室において講演会が開催されました。「Global Challenge for Sustainable Design」をテーマに、地球規模の環境危機やエコロジー問題、未来に向けた持続可能なデザインとはなどについて、ランガー氏は自身の作品を示しながら聴衆に語りかけました。

世界中で起こる環境破壊に対し、地球・他者への敬意が大切。

まずランガー氏は、21世紀は社会、政治、文化、すべての分野で劇的な変化を遂げていると語り、社会の変化に自然環境は追いつこうとしても人類による消費の度合いが大きく、廃棄物を自然が受け入れられなくなっていることを示唆。多くの動物種、植物種が絶滅の危機に瀕していることを指摘しました。

世界で水不足は深刻な悩みであること、世界人口の5分の1は先進国に集中し大量消費で汚染を作りだしており、5分の4は途上国で貧困に苦しんでいることなどを話し、「地球の置かれているこのような状況は変えることができる。世界市民が質の高い生活を送れるよう

な持続可能な開発を追求しなければならぬ」と主張。

持続可能な開発を支えるのは人間であり、一人ひとりが地球の将来を良くするために貢献しなければ達成できないと、ランガー氏は続けます。持続可能な開発のための教育において、その根幹は他者・環境・地球への敬意であると言えます。

「Everyday is Earth Day」 持続可能なデザインをつくろう！

ランガー氏は、社会のすべての分野でデザインが果たす役割は重要であると説きます。現在、世界各地で地域固有の文化が失われている状況であり、デザイナーは自らの文化遺産を守っていく役割を担っている、デザイナーこそ地球にやさしい生産・消費・生き方をしていかなければならないと話します。例えばパッケージ一つをとっても、消費するプラスチックの量を減らす工夫やリサイクルしやすさなどを考え、持続可能なデザインを作っていこうと話します。

デザイナーは地球上の様々な破壊を止めることができる「key position」にいると考え、「preventing, Reducing, Sharing, Changing, Restoring (備える、減らす、分かち合う、変える、再生する)」を、すべ

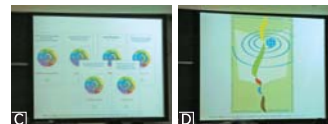
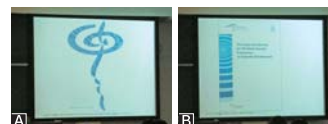
てのデザイナーが必ず立ち返らなければならない5つのポイントとして挙げます。そして、「Everyday is Earth Day」であることを忘れずにいるようにと語ります。

“Doing SUMRT Business- week by week” 「スマートビジネス」を成功させよう

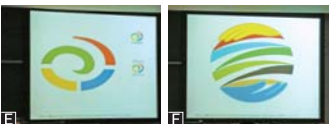
本学デザイン学部では、持続可能なデザインの実践として、ランガー氏と国連環境計画 (UNEP) および持続可能な消費と生産センター (C-SCP) が企画した“SUMRT Business “スマートビジネス”と名付けられた今日の状態の中で世界の働く人々の職場環境を改善するためのデザイン・プロジェクト” Doing SMSRT Business-week by week” (経営者にとっても、そこで働く労働者にとっても、より快適に

仕事ができる環境を生み出すための提案を52のテーマ(行動の提案)にまとめ毎週 一年間 52週間の視覚化されたカレンダーと冊子にまとめ出版する)を取り組んでおり、翌4月25日ランガー氏の指導するワークショップはじめ、緊密なネットによって制作していくことが紹介されました。

最後に、ランガー氏は、「デザイナーはそのインスピレーションを自然・社会・文化から獲得することができる。文化的な多様性を大切にし、グローバルな市民として、Sustainable (持続可能) なデザインをすぐにも始めて欲しい」と話して、この日の講演を終えました。



- A** Water-poster for the Water Forum 2006 in Mexico City 第4回世界水フォーラムのポスター
- B** The corporate Identity for UN-Water Decade Programme on Capacity Development 国連「命のための水」の10年のプログラム
- C** World campaign for the Decade of Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育の10年で使用
- D** Poster for the world campaign Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育のためのポスター
- E** Symbol "Life Cycle Initiative" for United Nations Environment Programme(UNEP) 国連環境計画の"Life Cycle Initiative" シンボルマーク
- F** Symbol "International Panel on the Sustainable Resource Management" 持続可能な資源管理に関する国際パネルのシンボルマーク



美術学部

デザイン学部

2008年度前期 交換留学生の ウェルカムパーティーが開催されました

3月末以降相次いで来学した交換留学生を招待して、本学西キャンパスのチューデントカフェテリアで、4月24日(木)夕刻より「ウェルカムパーティー」が開催されました。

本年度の交換留学生は、英国のブライトン大学から4名、ファルマス大学から1名、クリエイティブ・アー

ト(創造美術)大学から2名。タイのスリナカリンウィロット大学から2名。韓国の龍仁大学から2名、慶南大学から2名、驪州大学から2名の計15名で、内13名が参加しました。

開会に先立ち、榊 達雄学長から歓迎のスピーチがありました。その後、留学生一人ひとりが挨拶に立ち、覚えてたの日本語で、自己

紹介とこれからの抱負などについて語ってくれました。ブライトン大学からの留学生を含めてほぼ全員が日本語で挨拶するのは初めてのことで、国際教育センターの担当者も、留学生たちの日本語を学ぼうとする積極的な姿勢に驚いていました。

その後、懇親会に移り、留学生たちは日本人学生や教員たちと語り合いながら、和やかな雰囲気の中で、パーティーが行われました。

このような留学生との交流により、現在募集中の本年度本学からの海外派遣留学生の応募が増えることが期待されます。



美術学部

デザイン学部

第35回卒業制作展・記念講演会
第12回大学院修了制作展



第35回名古屋芸術大学卒業制作展は2月26日(火)から3月2日(日)まで、また、第12回名古屋芸術大学大学院修了制作展は3月4日(火)から3月9日(日)まで愛知県内の3会場に分かれて実施されました。大学卒業制作展は、愛知県美術館ギャラリーと名古屋市民ギャラリー矢田及び、本学西キャンパスのアート&デザインセンターの3会場で、大学院修了制作展は名古屋市民ギャラリー矢田でそれぞれ行われました。

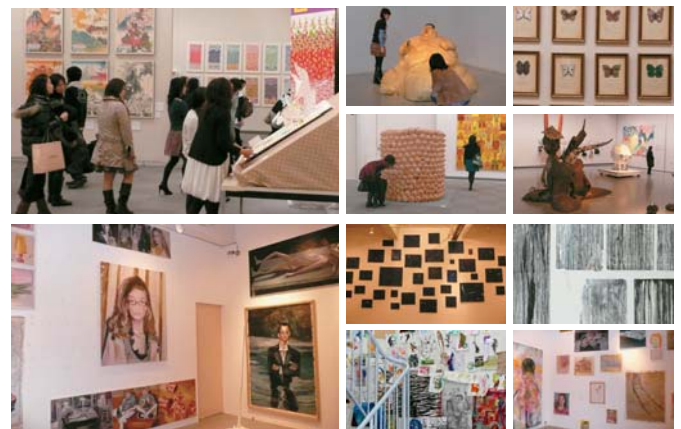
卒業・修了制作展は、この春社会へと旅立つ学生や院生たちが在学中の成果を公開する晴れの舞台です。十分時間をかけて創り上げられた会心の作品が展示されました。期間中各会場で、本学教員やゲストによる作品講演会が行われた他、2月29日(金)には、美術学部美術文化学科の「卒業論文・優秀論文発表会」が愛知芸術文化センター12階のアー

トスペースで行われました。また、同日同会場では「卒展記念講演会」として、女優・真野響子氏による「私を魅了するアート」と題した講演も行われ、約250名の方々が聴講されました。真野さんの現代美術に対する造詣の深さを垣間見る講演でした。期間中のイベントとしては例年と同様、版画選択コースの主催による「卒展会場スタンプラリー」が行われ、4会場を廻ってスタンプを集めた方の中から抽選で選ばれた方に、学生たちが作った版画・ドローイング・ガラス作品がプレゼントされました。

今回の卒業制作で優秀賞を受賞した学生は、別表の通りです。おめでとうございます。

美術学部・デザイン学部の'07年度を締めくくる恒例のイベントが盛大に行われ、無事終了しました。

作品とに分かれます。今回、晩年の佐藤先生に接した方には若さ溢れる作品を見ていただき、本学就任時の佐藤先生をご存知の方には、蒼い空間の中でモチーフを变幻自在に表現する作品から晩年の佐藤先生に想いをさせていただければと考えました。展示作品内容も日展発表の大作中心に展示することが出来、特に蒼い空間での日展大作作品連作が一つの会場に展示することは今までにはないことであり、会場全体



2007年度卒業制作優秀賞受賞者一覧

学部	学科	コース	氏名	作品名	
美術学部	絵画科	日本画	田中 樹里	灯り	
		洋画	宇佐美友里	夜夜櫻の裏側をくぐりその空間へ至るそこは大勢の意識の忍が集いそこは暗い海のような夢だ/屋の胎の熊の夢遊めど	
	版画選択		馬見塚喜康	まちまちのまち	ときどきどきどき
			西 奈美	とおる	
		造形科	造形	浅野 珠子	依存
		彫塑	横田 千明	organism	
デザイン学部	デザイン学科	工芸(陶)	大澤 哲哉	線からの逸脱	
		工芸(ガラス)	石川 智美	生めく幻	
		VD	増本 由香	BOU SHOP	
		IL	出雲 昌也	絵本 プレーメンの音楽隊	
		MMD	小池 鮎美	おかしな国のお姫様	
		ID	谷口 健作	禁断の実験	
		SD	長野 真久	Home Act.	
		MD	西原 恵太	みんなのつくえ	
		TD	小田 陽子	ほめことばのリスト	
		LS	上野めぐみ	紙紀	
	山田 麻衣	かおだしーplay textileー			
	橋口 萌	左きき事典			
	山田 啓時	語る人生ゲーム~TVに育てられる子供達~			

2007年度 美術学部美術文化学科 優秀卒業論文一覧

学部	学科	コース	氏名	論文名
美術学部	美術文化学科	芸術学選択コース	林 香里	「ロップス作品にみる倒錯的な女性像ー露悪に込められたメッセージー」
		芸術環境創造選択コース	村瀬奈津子	「きりえ作家・滝平二郎の原点ー版画作品から見えてくるものー」

美術学部

「蒼の吟遊詩人 佐藤罔夫
名古屋芸術大学収蔵作品展」
が開催されました

3月26日(水)から4月9日(水)まで、本学西キャンパスのアート&デザインセンターで「蒼の吟遊詩人 佐藤罔夫 名古屋芸術大学収蔵作品展」が開催されました。

故佐藤罔夫先生は、本学創生期より日本画教育に参画され、多くの教え子を育てられ本学絵画科日本画コースの礎を築かれました。

ご遺族より寄贈を受けた作品は、初期の若さ溢れる渾身の力を込め制作した代表作品と、晩年の蒼い空間での幻想的心象風景を描いた

作品とに分かれます。今回、晩年の佐藤先生に接した方には若さ溢れる作品を見ていただき、本学就任時の佐藤先生をご存知の方には、蒼い空間の中でモチーフを变幻自在に表現する作品から晩年の佐藤先生に想いをさせていただければと考えました。展示作品内容も日展発表の大作中心に展示することが出来、特に蒼い空間での日展大作作品連作が一つの会場に展示することは今までにはないことであり、会場全体

が静謐な蒼の空間となり大変見ごたえのある内容となりました。

期間中、4月5日(土)には入学式もあり、多くの新入生、ご父兄にも見ていただくことができ、卒業生の多くの方も日本画研究室を訪ねて下さいました。

改めて、佐藤先生の画業を通じて、新入生、ご父兄は本学に素晴らしい作家が教鞭をとられたことを知られ芸術の学びの意を強くされ、卒業生方は在りし日の佐藤先生、そしてかつての学び舎に思い出を語られていました。

美術学部 研究員 佐藤太亮



「風の譜」 岩彩
210×154cm
第29回改組日展出品作
【佐藤罔夫略歴】
1922年 若手県生まれ
1954年 第10回日展特選・白寿賞
1972年 名古屋芸術大学に赴任
1977年 第9回改組日展文部大臣賞
1989年 日本芸術院賞
1999年 日本芸術院会員
2006年 1月24日逝去、83歳。

人間発達学部

“ほくのわたしのすきなポップ” すしプレート ～おひな様企画～

人間発達学部子ども発達学科1年生が、回転すしのプレートを制作しました。このプレートは、福岡龍太先生の「造形実技1」の授業内で制作し、(株)丸忠グループ・すしプラザ丸忠“ちゅ〜う”日進梅森店において3月1日(土)～3日(月)全82作品を展示していただきました。

学生にとって、この制作過程は社会と接する貴重な機会であり、幼児教育・初等教育に携わる将来

にいい経験となるものでした。

なお、この作品展示は好評につき、3月13日(木)～3月20日(祝)まで、すしプラザ丸忠 牛巻店(名古屋市瑞穂区牛巻町)で“再演(再展示)”されました。



人間発達学部

「人間発達研究所」 が設立されました

2008年4月1日、名古屋芸術大学人間発達学部「人間発達研究所」が設立されました。

これは、①人間発達に関する教育・研究活動の推進、②地域に対する貢献活動の推進、③学生や卒業生などの実践力の育成、この3つを目的としています。

具体的には、本学部の専任教員が主となって、まずはそれぞれの専門分野において、人間発達に関する

調査、研究を推進し、その成果を発表する場としています。次に、地域に開かれた大学を目指し、公開講座などを企画、運営し、本学部の研究成果や知識・技術を地域の人たちに提供していく場としています。さらに、地域の親子との交流などを通して、学生の実践力を育てていくとともに、保育・教育の実践の場にいる卒業生の再学習の場として機能していくことを目指しています。

人間発達学部

基礎学力フォローアップ講座 スタート!

教育・保育の道を目指して、今年も人間発達学部には160余名の学生が入学してきました。県下にくつもの教員養成学部が新設されるという厳しい状況の中で、学生た

ちの夢を実現するためには、それに向けての実力の向上を図らねばなりません。そこで、本年度より基礎学力フォローアップ講座(国語、社会、数学、理科、英語)を開設しま

した。1年生は5月からですが、2年生は既に始まっており全員頑張っております。学生たちの学習効果が上がるように、子ども発達学科の教員も全員が交代で講座の補助的な仕事をサポートしております。

卒業期に、全員の夢が実現しますよう教員一同願っています。



人間発達学部 伊藤孝照

名古屋保育・福祉専門学校



2008年度入学式



本年度の入学式は4月3日(木)午前10時から川村理事長はじめ来賓の出席を得て本館3階の体育館で行われました。式典は、保育科丹羽ちさとさんの新入生を代表しての宣誓と、飯島校長の激励の言葉で無事終了しました。



滝子幼稚園



滝子幼稚園 入園式

4月8日(火)は滝子幼稚園の入園式でした。数時間前まで降っていた雨が上がり、すばらしい天気のもと、ピカピカの制服を着た新入園児72名(うち年中児1名含む)が、保護者の方に小さな手を引かれ登

園してきました。どの子の顔にも緊張と期待が見て取れましたが、式中のお話もお母さんとともにしっかりと聞くことができ、最後の写真撮影まで滞りなく終えることができました。

Column NUA No.4

発達・生成・芸術からなる ボロメオの結び目

ーニーチェの生涯によせてー

人間発達学部教養部会准教授 森田裕之



フリードリッヒ・ニーチェ。『ツアラトゥストラはこう語った』の著者として名高く、彼の思想は多くの誤解を孕みつつも広く知れ渡っています。その反面、彼が実際に生きた人生に明るく人は、それほど多くないかも

しれません。

ニーチェは1844年、ライプチヒ近郊の小村レッケンで牧師の子として生をうけました。彼は神童であり、ボン大学・ライプチヒ大学で学び、1869年には異例の若さでパーゼル

大学の古典文献学の教授に就任します。こうして学校生活を脱し、社会の一員となったニーチェの身には様々な出来事が降りかかります。ヴァーグナーとの親交、ヴァーグナーを賛美した『悲劇の誕生』の出版、ヴァーグナーとの決裂を決定づけた『人間的な、あまりに人間的な』の上梓、教授職の辞任、あの永遠回帰の思想の突然の閃き、ルー・ザロメへのかなわぬ恋、永遠回帰の思想を展開した『ツアラトゥストラはこう語った』の完成、『ヴァーグナーの場合』『偶像の黄昏』『アンチ

クリスト』『この人を見よ』を立て続けに書き上げた大いなる年1888年。こうした紆余曲折の生は悲劇的な結末を迎え入れます。1889年1月3日、ニーチェはトリノの下宿を出てカルト・アルベルト広場に行き、そこで辻馬車の御者が馬を殴っているのを目撃し、泣きながら馬を守ろうとしてその首にしがみつき、そのまま昏倒し発狂してしまふのです。1900年に55歳でこの世を去るまで狂人のままであったといひます。

このようにニーチェの生涯を通覧

短期大学部

短大部四十五年の歴史に幕
閉校式で校旗を返還し収納
東キャンパスに短大部閉校記念碑を設置

本学院は、昨年4月短大部保育科を発展的に改組し、大学に小学校教員、幼稚園教員、及び保育士の養成を目指す四番目の学部「人間発達学部」を設置しました。これに伴い、本年3月31日をもって短大部を閉校することとなり、3月1日(土)に短大部閉校記念碑除幕式と閉校式を開催しました。

午前9時30分から東キャンパスにおいて同窓会・後援会・記念碑制

作者・学内理事等が出席して短大部閉校記念碑の除幕式が行われました。川村理事長の挨拶、大塚康弘短大部後援会会長の贈呈の辞の後、理事長・同窓会副会長・後援会会長・短大部学長・短大部副学長・法人事務局長の手により記念碑の除幕が行われました。最後に大島短大部学長から謝辞があり除幕式は終了しました。

午前11時30分から名古屋駅近

くにあるキャッスルプラザに会場を移し、「短大部閉校式」を開催しました。

「孔雀の間」で行われた式典では、関係者多数参列のもと川村理事長の挨拶の後、「校旗収納の儀」が厳かな雰囲気の中で執り行われました。

短大部学生を代表して保育科二年猪飼智哉さんと音楽科二年高橋真沙美さんが校旗を折りたたみ、それを短大部学長へ渡し、短大部学長から理事長へ返還し収納しました。

正午から同じ会場で懇親会が行われ、式典は滞りなく終了しました。



大学
大学院

2008年度
名古屋芸術大学入学式

2008年度名古屋芸術大学入学式が、桜の咲き誇る4月5日(土)、本学西キャンパス体育館で行われました。午前10時から始まった式典

では、開式のことばに引き続き、榊達雄学長により2008年度の学部入学生および大学院修士課程入学生全員の入学が許可されました。

続いて学長式辞と入学生代表による宣誓が行われました。

この後、式典は、本学法人理事長の挨拶、来賓の北名古屋市市長による祝辞、本学教員役職者の紹介などがあり、閉式のことばで滞りなく終了しました。

式典終了後は、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラによる歓迎演奏が行われ、芸術大学にふさわしい入学式となりました。



大学
大学院

新入生歓迎会
一期一会/U-TORI

東キャンパス

一度しかないこの人生。この大学での出会いがその人にとって大切な物となってほしい。そんな思いがたくさん詰まった新入生歓迎祭。来てくれた方々を、各サークルやバンドが腕に縋りをかけた出し物で持て成し、模擬店が料理で持て成す。

実行委員の3年生は、初めて顔を合わせた人たちが一致団結し、先輩後輩関係なくみんなが笑顔で参加出来るような企画を作っていました。全ては来てくれた方々の為に、そして自分達の為に。

天気にも恵まれた当日は、たくさんの笑顔が見られました。

ありがとうございました。次は秋の芸大祭ですが、良ければ足を運んでください。お待ちしております。

西キャンパス

今年の新入生歓迎会のテーマはU-TORIで、これからの4年間の学生生活をゆとりを持って過ごしてもらいたい、という願いをテーマに掲げました。まず、芸術大学に入学したのだからここでしか出来ないことをしようと、アクション

ペインティングを行いました。ゲームは、「大玉ころがし」や「ひげダンス」などで会場を沸かせたり、「賞品ゲーム」などを行い賞品を配りました。部活動紹介では多くの部活に参加してもらい、大いに盛り上がりました。



してみると、そのなかに二つの変容が立ち現れていることに気がつきます。その一つはニーチェが子どもから大学教授に、つまり大人になるという変容であり、いま一つはニーチェがその晩年において正気な人間から狂人になるという変容です。前者は普通「発達」と呼ばれていて、従来、教育学や心理学の対象とされています。それに対して、後者はとりわけ精神医学の対象と考えることができ、ここではそれを「生成」と名づけることにしましょう。この発達と生成とい

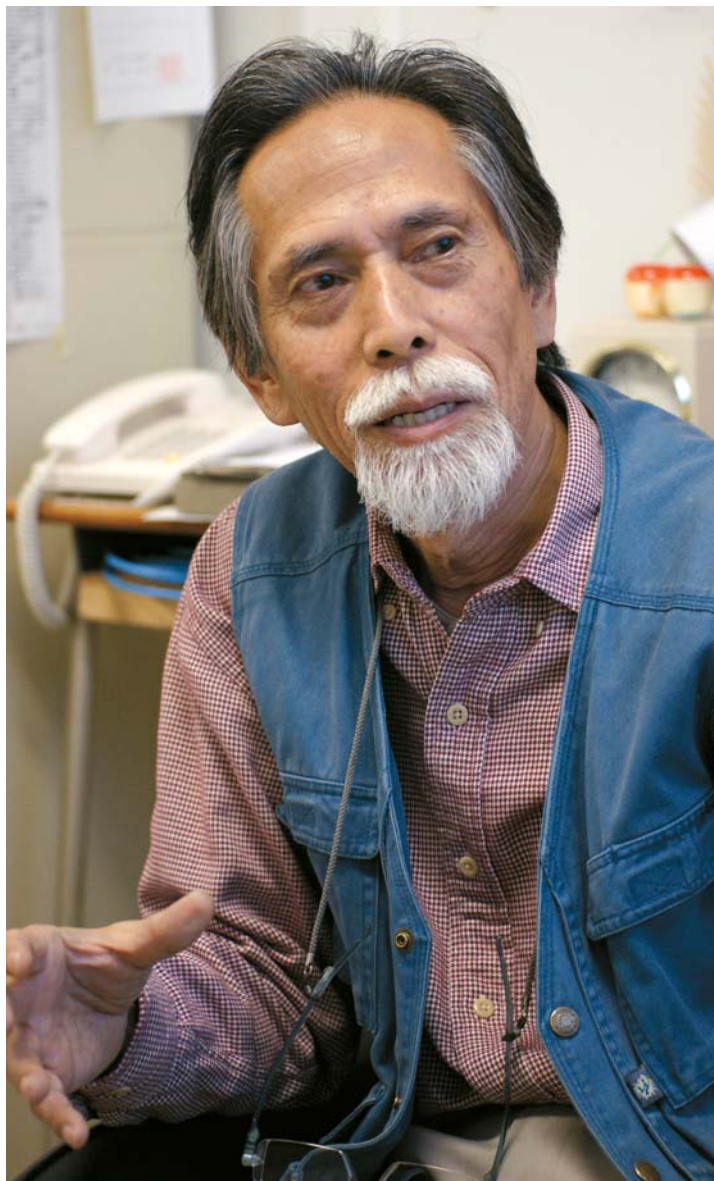
う二重の変容が、通常、相互に無関係で絆を欠いたものとして把握される二重の変容が、ニーチェの人生の上において切り結ばれているわけです。またニーチェは、ヴァーグナーとの親交があったことから想像されるように芸術を愛していました(芸術も、発達や生成とは異なる第三の変容として捉え直すことができるのですが、それに関する議論は紙幅の制限のために省略します)。そのことも射程に収めるならば、ニーチェの生涯という場において発達・生成・芸術という、

一見したところ関係性を微塵も感じさせない三つが実は三位一体をなし、いわばポロメオの結び目を形成しているのだと考えることができます。このポロメオの結び目こそがニーチェの生そのものだったのです。

ところが、発達・生成・芸術からなるポロメオの結び目が、ニーチェという一個人の生を大きく踏み越えて、人間という不可解な存在の生を貫く地下水脈としたら? 人間の生はこのポロメオの結び目によってトポロジックに解き明かせるのだとした

ら? そう考えるとき、人間発達学部が既存の名古屋芸術大学に付加される形で設置された意味も自ずから明らかとなるでしょう。発達は芸術という至高性とは縁もゆかりもない世俗的な営みではなく、芸術という輪とともに、人間の生の原理であるポロメオの結び目を形作っている一つの輪なのでから。

参考文献
●ドゥルーズ『ニーチェ』
湯浅博雄訳、ちくま学芸文庫。
●ザフランスキー「ニーチェーその思考の伝記」
山本元訳、法政大学出版局。



マスター ↑↓to アーティスト



【第4回】

<古希の少年>

庄司達

立体造形コース 教授



- 1939年 (昭和14年) 京都市生まれ
- 1962年 京都市立美術大学 (現京都市立芸術大学) 彫刻科卒業
- 1964 京都市立美術大学 専攻科彫刻専攻修了
- 1964~66年 京都市立美術大学 教職研究室非常勤講師
- 1966~71年 名古屋市立工芸高等学校 デザイン科教諭
- 1975~99年 名城大学理工学部建築学科非常勤講師
- 1977~85年 名古屋造形芸術短期大学非常勤講師
- 1983~99年 三重大学工学部建築学科非常勤講師

瘦せた頬、蓄えられた白い髭、そして、鋭い眼光。インスタレーションという芸術表現が日本に根付く以前、1960年代から布を使った空間表現の作品を発表し続ける偉大な先覚者。といっても、飄々としたその口ぶりが楽しい。

「絵の好きな高校生だったんです。けど、絵は自分で好きなので人に習うことはない。好きなことは習うことないと思ってたんです。知らないことを習うのが勉強なんだろうと」。学生時代は彫刻を学んだ。しかし、好きにはなれなかった。木、石、セメント…、どの素材にもはっきりと拒絶があった。塊が嫌いだったという。そして、全ての塊に空洞を空けた。薄く削ることで、何かを求めている。

なぜそうしたいか？ その理由は、青年にはわからなかった。

それが空間への希求だったと悟ったのは、すでに教鞭をとっていた27歳のときだった。「閃々と空間への関心はあったんですけど、それを表現する方法が見つからない。何をやっても上手くいかない。穴を開けても、空間としては完全じゃない。そんな頃でした。ある時、僕は必要なものがあって、教えてた高校の購買で買おうと生徒たちの列に並んでたんです。そして、僕の前にはいた男の子が『ハンカチ一枚』と言ってハンカチを買おうしたんですよ。当時は包装もなく、ハンカチが裸のまままで積んであってね。で、その生徒が、『一枚』と言ってピヤッと、ハンカチの束から一枚

取るんですよ。その瞬間、物体から、ハンカチが一枚空間へと浮かぶでしょ。物体から空間へと変貌を見たんです。衝撃だった。いてもたっていられなかった。授業を済ませると、ハンカチを買い占めた。手で引っ張り、飛ばし、天井から糸で吊るした。「もう、うれしくて。うれしくて。初めて空間が見えたんですよ」。美術の準備室は、瞬く間に布で埋め尽くされた。

その様子を、同僚であった先輩教師で画家の久野真(1921~1998)が、現代美術の桜画廊、藤田八栄子(1910~1993)に見せた。個展をやってみないかと誘われた。「僕は、自分の心を表現できたことで、遊びのつもりだったんです。美術と結びつけて考えてなかったんですよ。子供の遊びと一



『 白い布による空間 '68-7 』



『 Beyond the Sailing 』



『 布と竹・空間軸の内と外 』



『 Cloth-Behind・MEIRIN 』

前頁作品 a : 『 白い布による空間 マケットB 』

緒ですよ。発表するようなものとは思ってなかったので、それをすぐには引き受けなくて、1年間近く考えましたね。あるいは、自信がなかったのかもしれないともさっぱりという。簡単に自分の弱さを吐露できる強さ。若き日、人生に悩み、芸術に惑い、坐禅会に参加したこともあったという。苦悩に人一倍真摯に向かい合ってきたからこそ、たどり着いた境地が垣間見られる。

初めての個展からは、とんとん拍子で半年も経たないうちに有望な新人作家として世に認められた。しかし、同時にそれは新たな苦悩の始まりでもあった。「表現を見つけて人生にとっては満足ですよ。でも、それがど

こへ向かうのか、どういう宿命を背負って空間に関心を持っている自分なのか。解明しないと、空間の方向が決まらないでしょ。作品の発表と同時に、模索が始まりました。自分とは何か？ 何処から来て、何処へ行くのか？ 当て所もないような問いに、答えを求めて…。作品を作り続けてこられたのも、この己への興味があったからだという。

「空間を追求するほど、茶室の空間が接近してくるわけです」。お茶と華の師範であった父親。父親がその生涯の大半を過ごした茶室への不思議が、心の底にはあったのではという。父親への愛憎がそこに集約されていることは想像に難くない。

ウチとソト、ハレとケ、ときに聖俗が入り混じり行き来する空間。作品を作り始めて30年以上を経て、見えてきたことと話す。少年は、父親を超えようと、大人へと成長する。そして父親の人生を理解し、愛おしさを感じる。厳しさと優しさを湛えた庄司氏のまなざしが、その道程を物語る。「空間を分けることじゃなくてね、分けられた2つの空間を越えて行き来すること。両方を体験できるような仕組みを考えて、見る人に与えることが作品の目的ですね」。鑑賞者へ驚きを与えることも忘れない、初々しい気持ちも、そこにはある。「なかなか死ねないんですよ」少年の笑顔がそこにはあった。

2008年6月～12月までの主な行事・イベントスケジュール

音楽学部

- 2008年度 入試教育懇談会
6月3日(火) 16:00～
名古屋マリOTTアソシアホテル
- オープンキャンパス
6月14日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 第10回 ピアノコンチェルトの夕べ
7月9日(水) 18:30開演予定
しらかわホール
- 夏期音楽講習会
8月3日(日)～6日(水)
本学東キャンパス
- 第10回 ピアノサマーコンサート
8月12日(火) 17:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- オープンキャンパス
9月27日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ
第27回定期演奏会
9月30日(火) 18:30開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 名古屋芸術大学オーケストラ
第26回定期演奏会
10月16日(木) 18:45開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 研究生特別演奏会
10月31日(金) 18:00開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 第16回 ピアノの夕べ
11月6日(木) 17:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 第31回 定期演奏会
11月13日(木) 18:00開演予定
しらかわホール
- 名古屋芸術大学スペシャルコンサート
～コンチェルトの夕べ～
12月4日(木) 18:30開演予定
しらかわホール
- 第27回 室内楽の夕べ
12月9日(火)・10日(水)
両日とも18:00開演予定
熱田文化小劇場
- 2008年度 音楽企画(6)
“ザ・ルネッサンス21”
12月16日(火) 18:30開演予定
しらかわホール

- 冬期音楽講習会
12月24日(水)～27日(土)
本学東キャンパス

美術学部 デザイン学部

- アート&デザインセンターの
展示会スケジュールは別途掲載しています。
- 広告表現論特別講座
野上照代氏(作家)
6月4日(水) 16:10～
本学西キャンパス
 - 広告表現論特別講座
秋山育氏(イラストレーター)
6月11日(水) 16:10～
本学西キャンパス
 - オープンキャンパス 入門編
6月15日(日) 10:00～
本学西キャンパス
 - 2008年度 入試教育懇談会
6月17日(火) 15:00～
名古屋マリOTTアソシアホテル
 - 広告表現論特別講座
山内嗣葉氏(グラフィックデザイナー)
6月25日(水) 16:10～
本学西キャンパス
 - オープンキャンパス 体験編
7月20日(日) 10:00～
本学西キャンパス
 - 2008年度 一日芸大生
7月21日(月) 10:00～
本学西キャンパス
 - オープンキャンパス 進学編
9月14日(日) 10:00～
本学西キャンパス
 - 会田誠展('08年度企画展)
9月19日(金)～10月1日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
 - Drawing Encounter :
Hannover&Nagoya ('08年度企画展)
11月21日(金)～12月3日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター

人間発達学部

- 2008年度入試教育懇談会
6月10日(火) 15:00～
名古屋マリOTTアソシアホテル
- オープンキャンパス
7月20日(日) 10:00～
本学東キャンパス

- 特別公開講座
これからの幼児教育を考える
8月9日(土) 15:00開演
愛知県女性総合センター ウィルホール

- オープンキャンパス
8月23日(土) 10:00～
本学東キャンパス

- オープンキャンパス
9月21日(日) 10:00～
本学東キャンパス

- 芸大祭(全学同日開催)
10月24日(金)・25日(土) 予定
本学東西両キャンパス

名古屋保育・福祉専門学校

- 体験入学 13:00～
6月21日(土)
7月12日(土)・26日(土)
8月9日(土)・23日(土)
9月6日(土)・20日(土)
- 入学選考日
10月11日(土)・25日(土)
11月9日(日)・29日(土)
12月13日(土)
- 進学相談会 10:00～
10月18日(土)
11月8日(土)
12月6日(土)
- 学校祭 10:00～
11月 8日(土)

幼稚園(クリエ)

- 親子ふれあいデー
6月7日(土) 9:00～
- ひよこ組
6月21日(土) 10:30～
- 親子で吹奏楽を楽しもう
6月28日(土) 10:30～(予定)
- ホタルを観る会
未定 19:30～20:30
- ひよこ組
7月12日(土) 10:30～
- お泊り保育 年長
7月17日(木)～18日(金)
- 卒園児 幼稚園で遊ぶ日
7月22日(火) 10:00～
- クリエまつり
8月23日(土) 16:30～

- 平成21年度入園説明会
9月6日(土) 10:00～

- ひよこ組
9月8日(月) 10:30～

- おじいちゃんとおばあちゃんと遊ぶ日
9月13日(土) 9:30～

- 移動動物園
9月25日(木)

- 運動会
10月11日(土) 9:00～

- ひよこ組
10月20日(月) 10:30～

- ひよこ組
11月10日(月) 10:30～

- 親子でミュージカルを楽しもう
11月15日(土) 10:30～(予定)

- 発表会
12月13日(土) 9:30～

- ひよこ組
12月18日(木) 10:30～

幼稚園(満子)

- 家族ふれあいの日
6月15日(日)
- 七夕まつり会
7月7日(月)
- お泊り保育
7月22日(火)・23日(水)
- 新一年生同窓会
8月21日(木)
- 夏祭り
8月23日(土)
- 運動会
10月5日(月)
- いもほり
10月20日(月)～27日(月)
- 作品展
11月8日(土)
- 遠足
11月14日(金)
- クリスマス会
12月12日(金)
- おもちつき大会
12月19日(金)

■ 予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。■

編集後記

名古屋芸大グループ通信は創刊以来3年目を迎えました。本誌は、名古屋芸術大学をはじめグループ各校の日常の教育実践活動を、学外の関係者に広く知らしめることを主目的に発行されています。本年度もこの方針に基づき、6月、10月、2月と年3回の発行を計画しています。このたび第7号をお届けすることができました。今回は、美術学部の学科改編に伴い、4月からスタートしたアートクリエイターコースを特集しました。日本画・洋画・彫刻・工芸など、これまでの美術のジャンルにとらわれない新しいタイプのクリエイターを育てるコースです。

ユニークな入試選抜を突破して第一期生となった新入生達。明るく生き生きと学ぶ姿勢がとても印象的でした。今後のコースの発展と彼らの成長にご期待ください。

ニュース&トピックスでは、この3月に行われた卒業演奏会や卒業制作展の様子を、また新年度の開始にあたり入学式や新入生歓迎会などを取り上げました。海外からの留学生も元気で張り切って授業に出席しています。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。

geibun@nua.ac.jp



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



【表紙の作品】
「TOKYO ZENMAI」 矢田雄紀

発行：名古屋芸術大学
編集：全学広報誌編集委員会
制作：(株)クイックス
発行日：2008年6月1日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326
E-mail geibun@nua.ac.jp